

検討の方向性について

平成29年3月2日

中小企業庁商業課

検討の方向性（本日のプレゼンテーマ）

第2回で提示した検討の方向性

① 「空間」としての商店街に焦点を当て、議論を深めてはどうか。

- 第1回の議論では、商店街という「空間」に対して意見が多く集まった。また、商店街が存在し続けるため、地域とのつながりや若者へのアプローチが重要との意見も複数見られた。
- 本検討会においては、商店街という空間（個店が集まり商いをする場）とはどのような存在であるのか、今後どのような存在に変わっていくべきか、そのためにはどのような支援が必要かという議論をまずは深めてはどうか。

② 「求められる商店街」の特徴付けをしてはどうか。

- 第1回の議論では、流動性を失った現在の商店街の必要性について疑問が呈された。
- 商店街が流動性を取り戻すには、開かれた商店街に変えていく必要性があるが、具体的に商店街は何をすればよいか。
- 立地環境（商圈人口、スーパー・大店・コンビニの有無など）、顧客層（地域住民・観光客、年齢層など）、顧客・地域に対し商店街が果たしている機能、今後商店街が果たしたい機能について整理し、目指すべき求められる商店街の特徴をベンチマークとしてまとめてはどうか。

③ 「求められる商店街」になるために、どのような支援が必要か。

- ベンチマークを示した上で、目標を定めた商店街は何をすればよいか、どのような支援が必要か、検討を行ってはどうか。

(参考) 第2回でいただいた主な御意見

議論の仕方・方向性

- 今後議論を進めていくにあたって、議論の仕方や方向性に関していただいて御意見は以下のとおり。
- ✓ この検討会で議論する商店街のイメージを共有することが必要。
 - ✓ 商店街をどうにかしなければならぬと思ひ議論するのであれば、前向きな話で商店街やこれから商店街を使うアントレプレナーの支援をして欲しい。
 - ✓ 商店街の良いところを集め、それを伸ばす議論をするべき。
 - ✓ 一つ一つの現場に即した対応をしていくためには何をすべきか、一つの答えを見つけるのではなく議論をしたらよいと思う。
 - ✓ アセット（土地・建物）、その中でやる商売、集団として取り組むことを分けて議論すべき。

以降の整理の視点

- 以降は、第2回でいただいた主な御意見を、第1回同様、第1回で提示した想定する検討内容、商店街の構成要素から分類。

想定する検討内容（第1回資料2）

（1）商店街の必要性

- 地域における商機能の担い手が商店街である必要性は何か。
- 地域内で経済を循環させ、また、将来にわたって地域の買い物機能を維持するためには、どのような主体が商機能を担うべきか。

（2）求められる商店街

- 今後、「地域に求められる商店街」はどのような姿になっていくのか。
- 商店街が求められる姿が変わるためにはどのような取組を行えばよいのか。

（3）稼げる商店街

- 商店街と商店街内に立地する個店の両方がきちんと利益を上げ、事業を継続していける環境を確立するには、どのような取組が必要か。

（4）あるべき支援の姿

- 商店街の活性化のためには、今後どのような支援策を取るべきか。
- どのような支援体制が効果的か。

商店街の構成要素

空間（連携）

※商店街という一つの空間に焦点

事業（個店）

※商店街の中の個店や事業に焦点



組織（人）

※商店街で働く人で構成される組織に焦点

土地（資産所有）

※商店街にある物を所有する者に焦点

求められる商店街

- 今後、「地域に求められる商店街」はどのような姿になっていくのか。
- 商店街が求められる姿に変わるためにはどのような取組を行えばよいのか。

空間

- ✓ お客様に満足してもらおう儲ける力があり、さらにおもてなしやサービス、コミュニティの付加価値が付いた「行く理由」のある商店街にすることが大切。
- ✓ 自分の商店街を分析して課題を洗い出し、それを克服することに取り組んで行くことが必要。
- ✓ 商店街は、老若男女幅広い人たちに、まちを良くしていく動きをわかりやすく伝えられるインターフェースのよ
うな空間。それが今、商店街の可能性と感じている。
- ✓ これからの商店街は、スタートアップしやすく、また、管理ができている場所であって、ステップアップもできる場所であって欲しいと思う。

稼げる商店街

- 商店街と商店街内に立地する個店の両方がきちんと利益を上げ、事業を継続していける環境を確立するには、どのような取組が必要か。

空間

- ✓ 商店街が存続するためには、商いができていない個店は入れ替わっていかななければならない。また、市場がなければ諦めて場所を移るべき。
- ✓ 商売がなくなっていくのは、必要性がなくなるからである。
- ✓ 経営的な視点を持ち、必要なものが含まれている商業集積にすることが必要。
- ✓ 商店街を残すことや昔の商店街を取り戻すことに拘るのではなく、資産を必要とする人に使ってもらう流動性の担保に力を向けるべき。また、新陳代謝が機能するようにし、金融が健全に動いていく仕組みに力を入れるべき。
- ✓ 若い人がどんどん入っていき、商売をやめたい人は退出していく流れがある、代謝が起こっていく商店街が、求められる商店街のイメージの一つではないか。そのために何をやっていけばよいか考えることが、一つの考え方の切り口としてあると思っている。

事業

- ✓ 家業を継いでいくことは尊いことであり、重要であるが、大変な状況のときに事業を閉じられるということは大切。やめるべきときはやめていいし、もう一回始めるときは始められることがあってもいいと感じる。

稼げる商店街

土地（資産所有）

- ✓ 商売で成功することができていない商店街の不動産オーナーは、新たに商売を始めたい人に資産を活用してもらえようにしなくてはならない。不動産オーナーが新陳代謝を考え動くことができれば、その総体としての商店街も残っていける。
- ✓ 個店が減少し商店街活動が成り立たなくなっている中で、商店街に残るのはアセットとしての価値。権利者は店を閉めた後、次の活用方法を検討することが必要。

あるべき支援の姿

- 商店街の活性化のためには、今後どのような支援策を取るべきか。
- どのような支援体制が効果的か。

空間

- ✓ 国は経営の観点を持ち、意欲ある地域のバックアップをする施策を打つべきではないか。
- ✓ 人が買物に行く場所がイコール商店街だと思っている。それを全部支援していく必要があるのかという議論をするためには、何らかの形で類型化して分けていったほうが良いと思う。
- ✓ 商店街を残すことや昔の商店街を取り戻すことに拘るのではなく、資産を必要とする人に使ってもらう流動性の担保に力を向けるべき。また、新陳代謝が機能するようにし、金融が健全に動いていく仕組みに力を入れるべき。（再掲）
- ✓ 商店街の資産を既存の事業者が殺してしまっているせいで、商店街で事業を行いたいと考えている事業者がいても、商店街が空間を提供できずにミスマッチが起きており、商店街という魅力ある空間をうまく利用できていないと感じている。こうしたミスマッチがどれくらい起きているか、国としても調べて見る必要があると考える。
- ✓ 若い人がどんどん入っていき、商売をやめたい人は退出していく流れがある、代謝が起こっていく商店街が、求められる商店街のイメージの一つではないか。そのために何をやっていけばよいか考えることが、一つの考え方の切り口としてあると思っている。（再掲）
- ✓ 今までの支援事業は最近の新しい状況に合っておらず、今までの考え方では立ち行かない。
- ✓ まちとして新しいなりわいを育てていくという意思決定をし、それをとことん支援していけば、また新しいなりわいの集積ができていくと思う。それを本気で進めることが、やるべきP D C Aだと思う。

あるべき支援の姿

事業

- ✓ 商店街を経済主体として考え、商店街区の不動産やそこに入る事業者がしっかり利益を上げていくことを、産業政策としての軸を中心において考えていくことが必要。
- ✓ 店を貸す道を準備し、店を閉める商店主が次の世代に譲っていくこと自体が誇りとなる仕組みや、商売をやめてもまちに関われる仕掛けをつくることが大切。

土地（資産所有）

- ✓ 商店街の中にある駅前広場や道路、公園などの公共施設の活用について、行政も地権者として使い方を考え直すことが必要。
- ✓ 公共施設の整備にあたっては、運用もセットで考えていかなければならない。商業や様々な機能の集積場所としての商店街の在り方を、今の時代に合わせて捉え直し、行政・地権者・個店が一緒に同じ方向に向かってある程度の大きさをもって協議し、それぞれが役割をもって動いていくことが大事。
- ✓ 貸したくないと思っていたり、賃料が適正な市場価格でなかったり、市場が開かれていない商店街が商店街が多すぎるので、何とかしなければならない。その時、動ける範囲を整理し、動ける範囲でファイナンスを組みながら取り組める組織が必要ではないかと思う。